

「下野市地域情報化計画策定に 関するアンケート調査」結果

市では、急速に発達しているICT（情報通信技術）を有効に活用し、市民誰もがICTの恩恵を受けられることで豊かな生活を送れるよう「地域情報化計画」を策定中です。

策定に際して、市民の皆様の情報化に対する考え方やご意見等をお聞きするためのアンケート調査を実施しました。このたび、集計結果がまとまりましたので、その概要についてお知らせします。

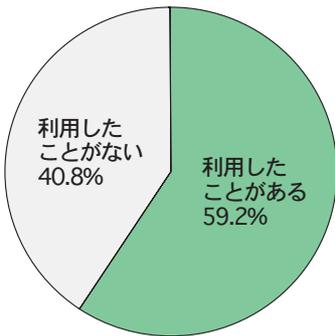


問い合わせ先
 企画財政課
 政策推進グループ
 ☎40-5552

【調査概要】
 調査対象者
 無作為に抽出された市内在住の18歳以上の男女1,000人
 調査方法
 郵送による配布・回収
 調査期間
 8月17日～9月3日
 回収数
 395人（回収率39・5%）

回答者の属性

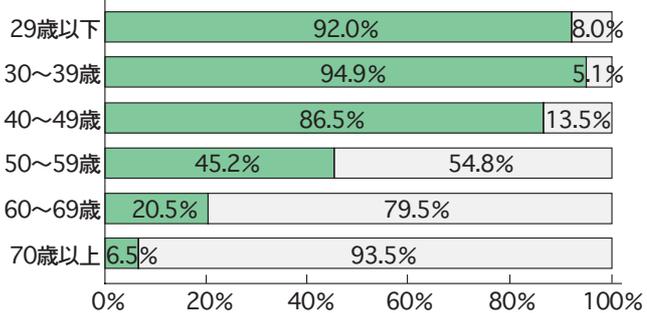
| | | | | | | |
|----|-------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 性別 | 男性 | 女性 | | | | |
| | 45・5% | 54・5% | | | | |
| 年齢 | 29歳以下 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～69歳 | 70歳以上 |
| | 12・2% | 17・2% | 18・2% | 17・2% | 20・3% | 14・4% |
| | 12・2% | 17・2% | 18・2% | 17・2% | 20・3% | 14・4% |



インターネットの利用経験
 インターネットを利用したことがある市民の割合は59・2%で、全国の普及率（68・5%）よりやや低い値となっています。

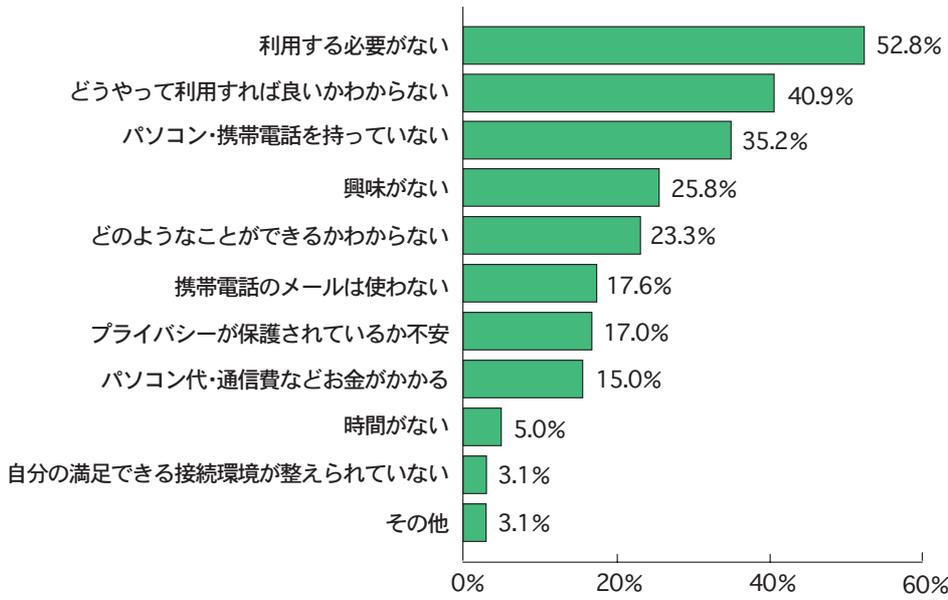
また、50歳未満では男性、女性とも9割前後の方がインターネット利用経験があると回答しています。一方、50歳以上をみると、50～59歳では男性は64・3%、女性は45・2%、60歳～69歳では男性は38・5%、女性は20・5%と年代が上がるとともにインターネット利用経験者の割合が下がり、特に男性よりも女性の方が少なくなっています。

＜女性＞

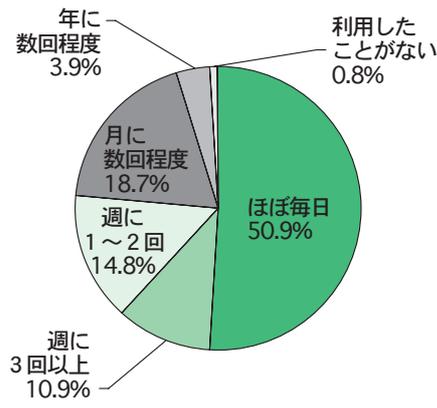


＜男性＞

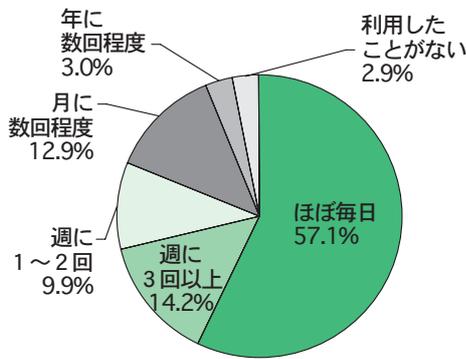
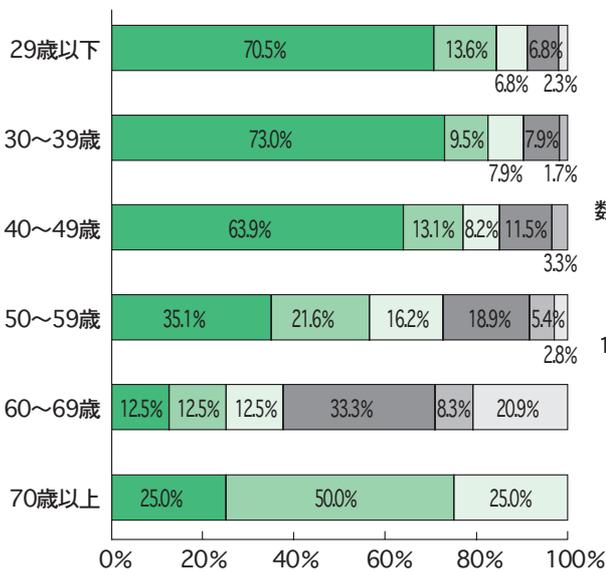




インターネットを利用しない理由
「利用する必要がない」(52.8%)が最も多く、次いで「どうやって利用すれば良いかわからない」(40.9%)、「パソコン・携帯電話を持っていない」(35.2%)、「興味がない」(25.8%)が多く挙げられています。



インターネットの利用(電子メールを除く)頻度
インターネット利用者のうちの50.9%が「ほぼ毎日」と答えており、週に1回以上ホームページを閲覧する方は4分の3以上となっています。インターネット利用経験者は、高頻度でインターネットを利用する傾向にあります。



電子メールの利用頻度
電子メール利用者のうち57.1%が「ほぼ毎日」と回答しており、週に1回以上電子メールを利用する方は全体の8割以上となっています。また、49歳未満の約85%の方は週に1回以上利用していることから、電子メールは若い世代の日常的なコミュニケーション手段となっていることがわかります。

インターネットの利用接続形態

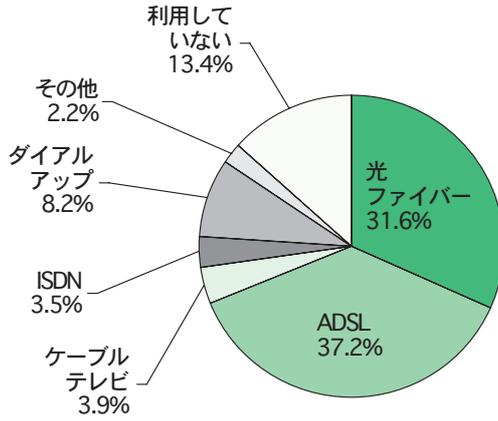
「光ファイバー」(31.6%)、「ADSL」(37.2%)、「ケーブルテレビ」(3.3%)を合わせ7割以上がブロードバンドを利用しています。またインターネット利用未経験者を含めると全体の42.5%がブロードバンドを利用していますが、全国のブロードバンド世帯普及率(51.7%)よりやや低い普及率となっています。

通信回線整備状況別にみると、光ファイバー整備済地域では「光ファイバー」(39.6%)、「ADSL」(34.6%)、「ケーブルテレビ」(3.3%)とブロードバンド利用率が8割弱で、ADSL整備済地域、ブロードバンド未整備地域よりも高くなっています。また、ブロードバンド未整備地域でも「利用していない」(19.2%)を除き、8割以上が何らかの接続形態でインターネットを利用しています。

ブロードバンドとは？
映像や音声といった大容量のデータを高速で伝送できるインターネット接続のこと。

光ファイバーとは？
光信号を伝送するための通信線。整備地域であれば、どこでも超高速のインターネット接続サービスが利用可能。インターネット接続サービスの主流となりつつある。

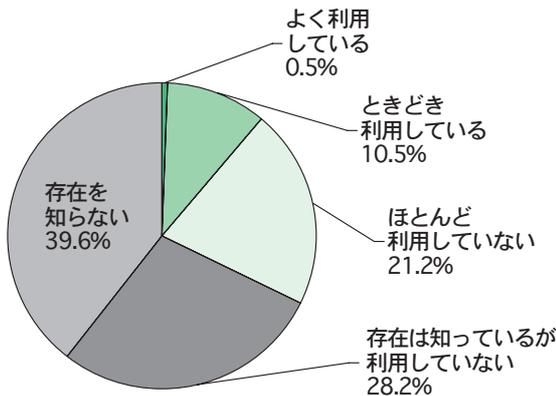
ADSLとは？
電話線を使った高速インターネット接続サービスだが、電話交換局から遠くなると通信速度・品質が落ちる。



本調査結果における「ブロードバンド未整備地域」は「電話交換局より2km以上の地区（ADSLの通信品質が低い地区）」としているため、実際にはADSLサービスを利用可能な地区もあります。

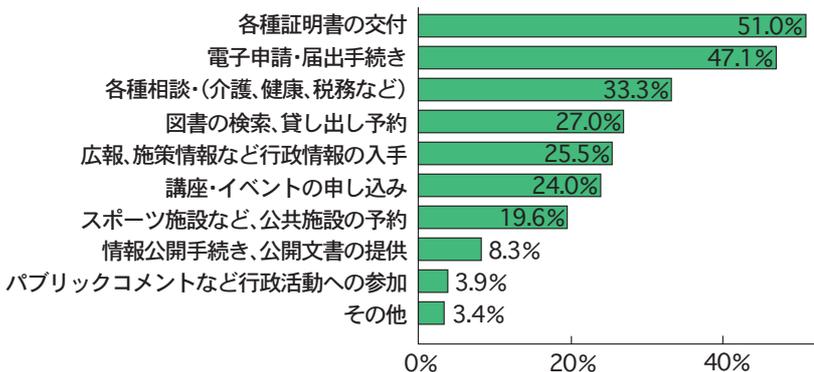
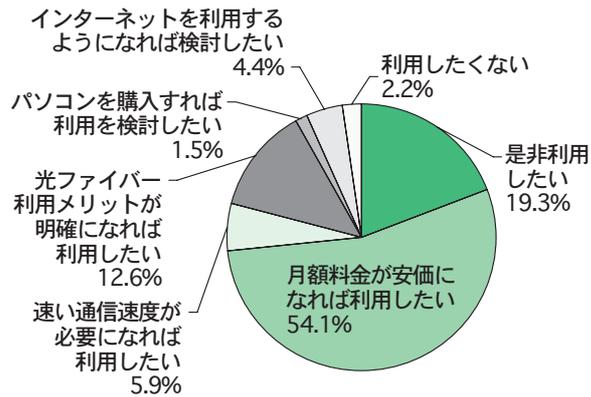
下野市ホームページの利用頻度

「よく利用している(0.5%)」、「ときどき利用している(10.5%)」であり、利用頻度はあまり高くありません。



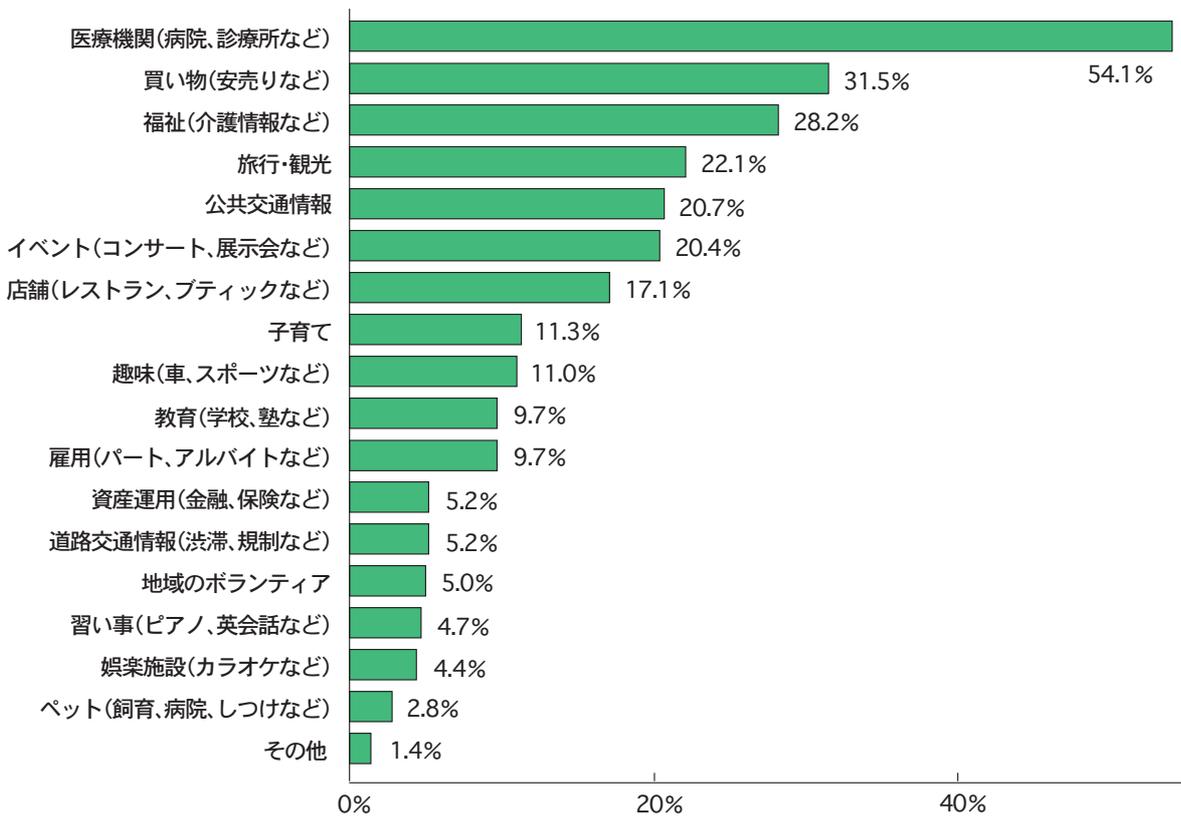
光ファイバー非利用者の今後の光ファイバー利用意向

19.3%の方が「是非利用したい」と回答しています。また、利用を検討する場合の一番の懸念事項として「月額料金が安価になれば利用したい(54.9%)」が多く挙げられています。一方で「利用したくない」は2.2%に留まっています。



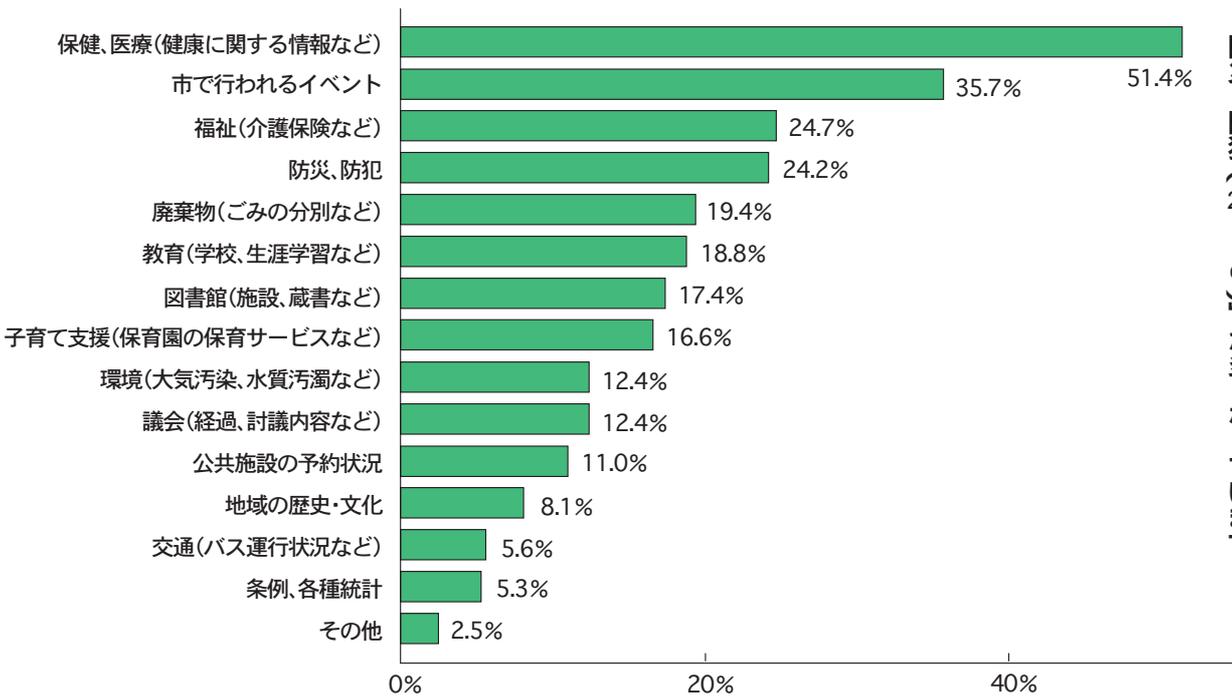
市ホームページで今後利用したいこと「各種証明書の交付(51.0%)」が最も多く、次いで「電子申請・届出手続き(47.1%)」が多くなっています。一方、「情報公開手続き、公開文書の提供(8.3%)」、「パブリックコメントなど行政活動への参加(3.9%)」を挙げる方は少なくなっています。市民に身近な証明書の交付や申請・届出のオンライン化を実現することが求められています。

普段の生活で必要となる地域の情報



「医療機関」(54・1%)が最も多く過半数を超えており、次いで「買い物」(31・5%)、「福祉」(28・2%)となっています。

下野市から提供して欲しい情報



「保健、医療」(51・4%)が最も多く、次いで「市で行われるイベント」(35・7%)、「福祉」(24・7%)、「防災、防犯」(24・2%)が多くなっています。

市地域情報化計画の基本的な方向性

市民アンケートや庁内情報化現況調査等をもとに、市情報化推進本部（本部長：市長）及び学識経験者と公募委員で構成する市情報化推進委員会（委員長：根本典夫氏）で当計画の基本的方向性を検討したところ、次の5つの項目にまとめられました。

1. 誰もが情報化の恩恵を享受できる情報化推進基盤の整備
2. 電子市役所の推進による便利さを実感できる市民サービスの実現
3. 安全・安心な市民生活の実現
4. 行政事務の高度化・効率化
5. 地域の一体感の醸成と豊かで活力あるまちづくりの推進

今後、この基本的方向性をより具体的に検討し、今年度中に当計画を策定する予定です。